

日本統合医療学会 北海道支 部看護部会 第3回勉強会

テーマ: ケアリングについて

猪股千代子

2010年11月20日(土)13:30-15:30
札幌医科大学保健医療学部会議室

ワトソン21世紀の看護論

トランスパーソナルな ケアリング・ヒーリングモデル

Postmodern Nursing and Beyond

Jean Watson

本日の進め方

- 3～4人で、学んだこと、わかったこと、わからなかったことを、話し合う
- 全体で、話し合う
- まとめの講義を行う
- 共通理解・共通言語を促進する

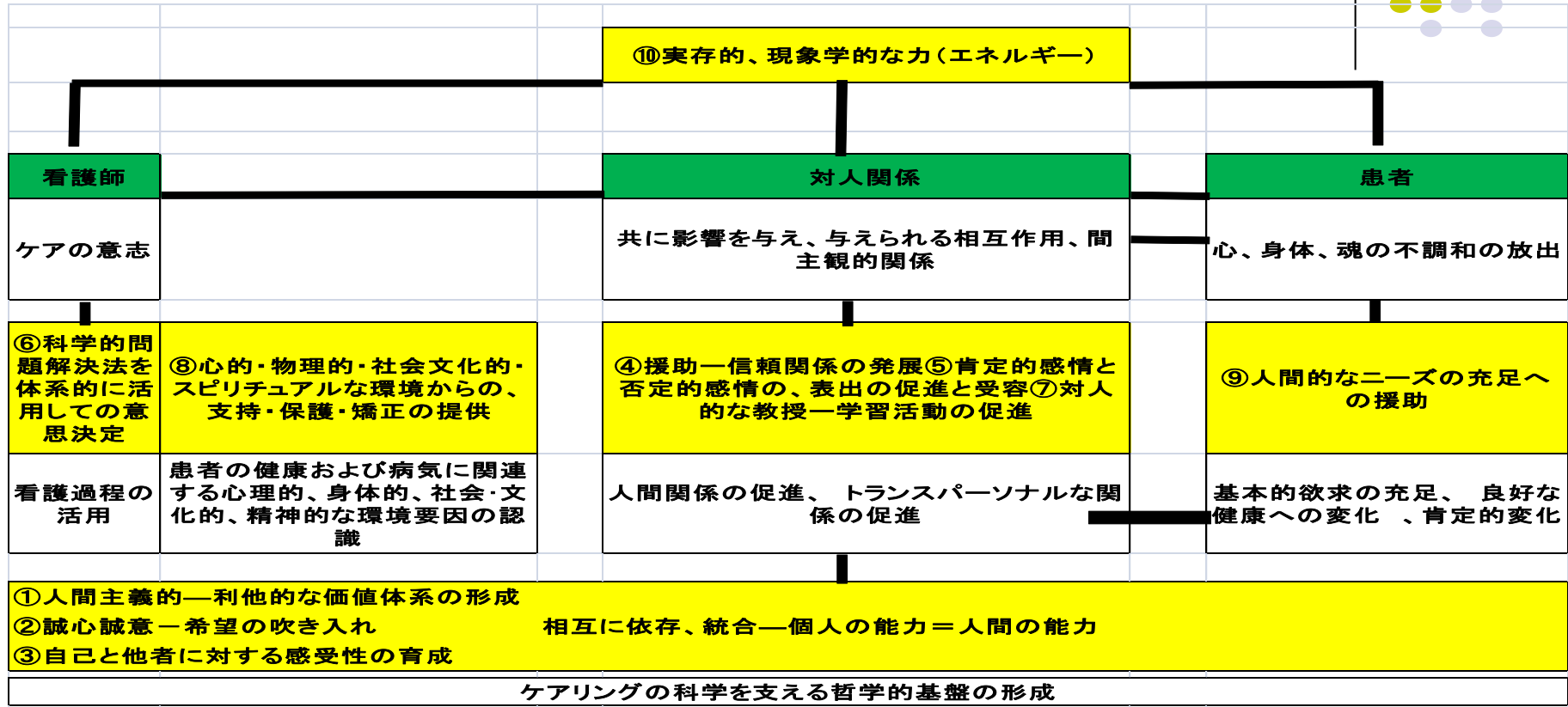
ケアリング

- 関係におけるあり方(ノディングス)
- 乳幼児期の愛され保護される経験に基づく、優しさに対する自然の渴望。ある特定な行為や態勢ではなく、自己と他者との関係における他者への受動的・応答的なあり方(ノディングス)
- 相手の傷つきやすさを守るためのかかわり(ガードウ)

ケア因子→クリニカル・カリタス・プロセス

慈しみ・繊細で尊い関わり＝愛情とケアリングの関係は内的な癒しを示す
患者や自分自身の実存的な問題に目を向けることに意義がある

ヒューマンケアが創造されるプロセス



トランスパーソナル・ケアリング・ヒーリング

1. 人間は、肉体以上のもので、靈性を秘め、トランスパーソナルな超越的発展的意識、心・肉体・魂の一体化で、一つに統合した人・自然・宇宙である。
2. 人間と環境のエネルギーの場を認める。
3. 意識をエネルギーとして仮定する。
4. ケアリングは、ヒーリングと全体性を強力にする。
5. ポストモダンのトランスパーソナル・ケアリング・ヒーリングモデルは、ケアリング、ヒーリングの発展と再導入が基本となる。
6. ケアリング・ヒーリングプロセスと関係性は、神聖なるものと考えられる。
7. 世界観や宇宙観としての一元的意識(すべてのものの結合性)を考える。
8. ケアリングは、人間や惑星の生き残りのための道徳的使命である。
9. ケアリングは、看護や社会のためのグローバルな検討課題である。

人間観

- 人格を備えた存在
- かけがえのない人間
- 心 (mind)・肉体 (body)・魂 (soul)を宿した存在
- 個人の各部分を集め合わせても全体としての1個の人間にはいたらないし、各部分の総和とは異なる存在
- 人の一生 (ヒューマンライフ) は、時間的にも空間的にも連続した心・肉体・魂として人が存在する「世界-内-存在 (being-in-the-world)」

環境観

- 社会：人の行動を決定づける価値観を個人に与え、個人の知覚にも影響を与えるもの
- 世界：宇宙におけるあらゆる力で、人に影響を与える直接的な環境や状況

健康観（健康－不健康）

- 不健康：必ずしも疾患があることを表しているのではなく、内面の自分や魂のレベルでの主観的な不調和で、心・肉体・魂が意識的にあるいは無意識的にぎくしゃくしていること
- 健康：心・肉体・魂が統一されていて調和していること
- 健康の程度：知覚された自分と経験された自分との一致による

個人の経験世界＝現象野

- 現象野は本人のみが把握できる個人的でとても主観的な世界
- 他者が共感によって推測する以外に知ることはできない
- 人がさまざまな状況で感じたり対応したりするのは、その人の主観的な現象野によって左右される

ワトソンの考える世界観

- 看護が人の心・肉体・魂にはたらきかけると考えており、全体論的なとらえ方をしている
- 人と人とのトランスパーソナルといった精神性に触れる次元での、感情やタッチング、言葉、音、色彩、形・・(香り)などを通した、心・肉体・魂の働きを大切にしている
- 自己・他者・自然・宇宙が相互にハーモニーをなすことを追求しており、人間や看護が宇宙のなかでとらえられている

看護観

- 看護:健康を増進し、不健康を予防し、病人をケアし、健康を回復することにかかわっている
- 看護(学): 一個の人間が職業として行うヒューマンケアのサイエンス・美学・倫理の部分によって解決される人間の健康－不健康という経験
および一個の人間に関する人間科学
(Watson,1988/1992,P76)

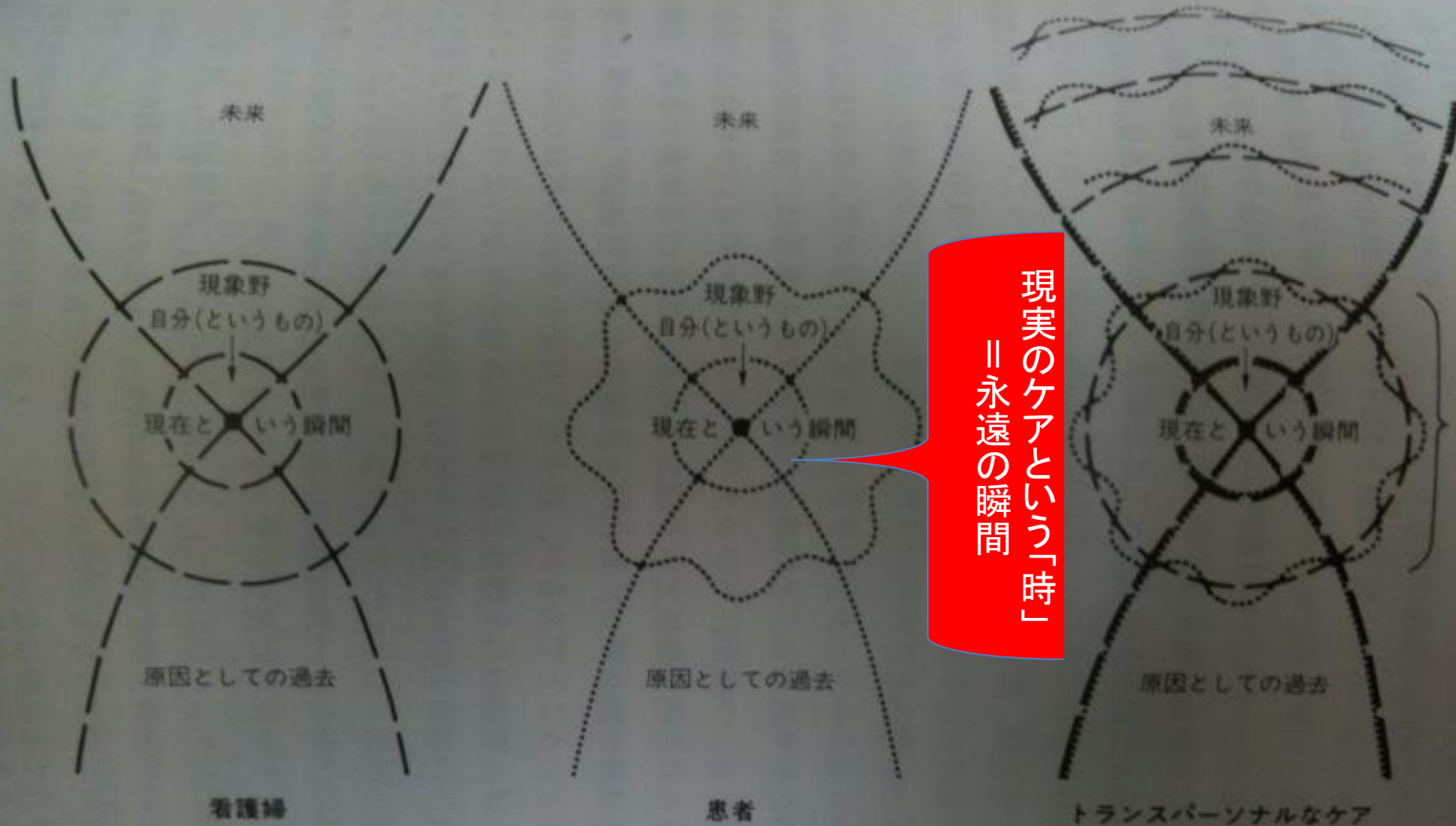


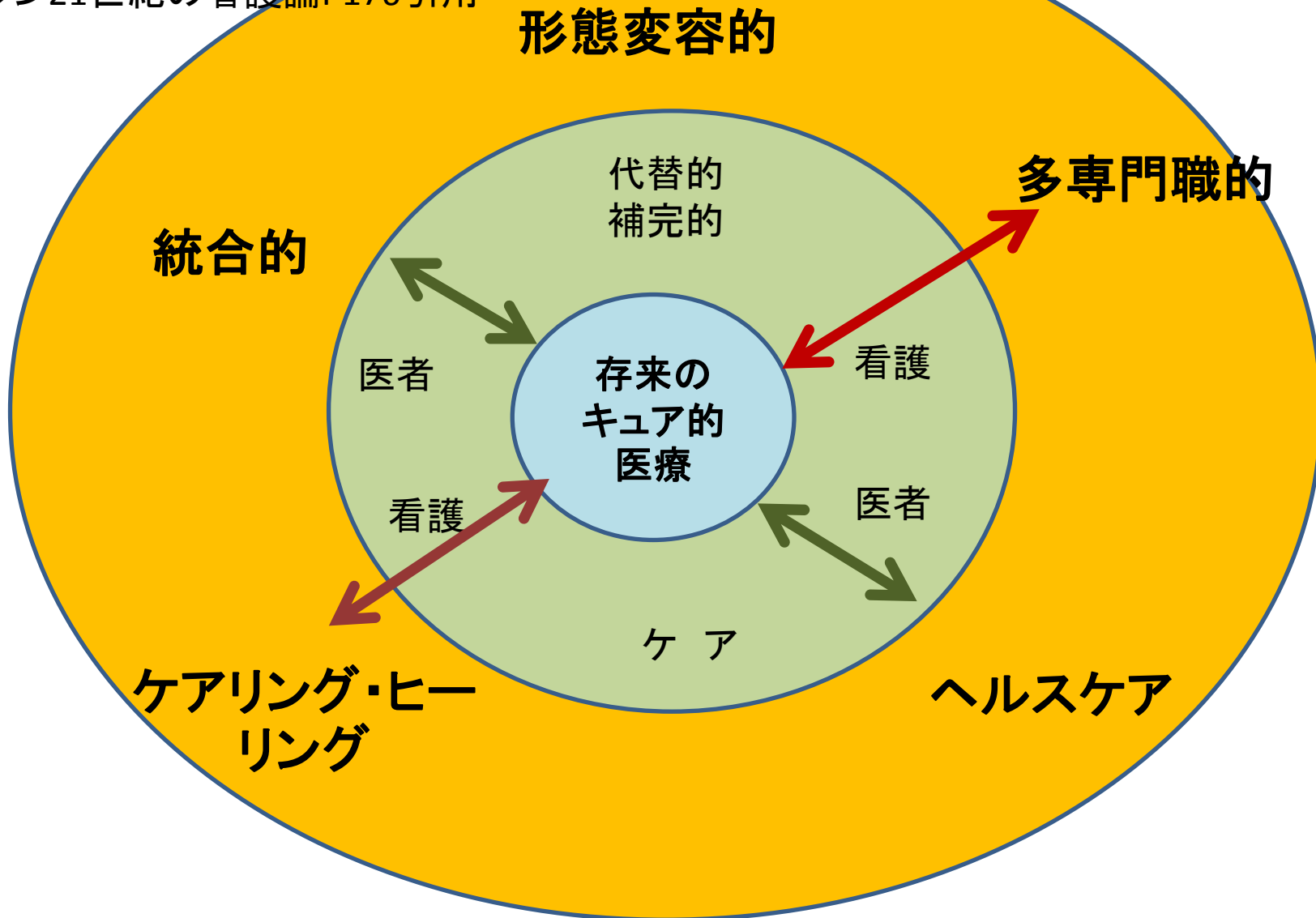
図5 看護婦-患者-人と人との間それぞれの場合におけるヒューマンケアのプロセスの動態

トランスパーソナルケアの条件

1. 人間の尊厳を高めようとする道徳的熱意があり、自分独自の意味を決めることができること
2. 患者にとって主観的に重要と思われる価値を強化する意図・意志をもっていること
3. 患者の内面の状態やフィーリングを実感でき、理解できること
4. 世界内存在という患者の心身のありようを見きわめ、理解し、患者と一体感をもてること
5. 看護師自身の生活史や様々な経験、対人関係などを通し、独自の生き方・考え方・感じ方さらには心身の状態について内省し、気づいていること

進歩的な医療・ヘルスケアのアプローチ

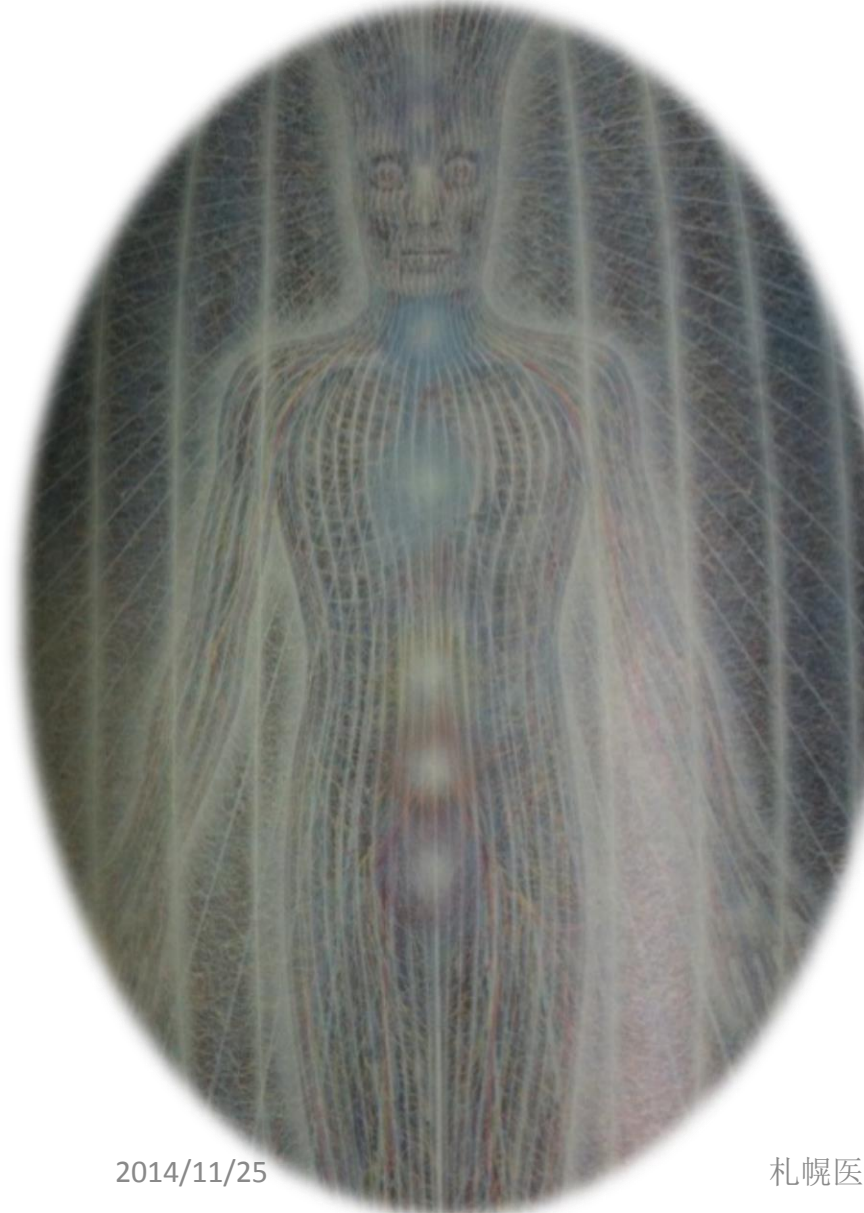
ワトソン21世紀の看護論P176引用



ワトソン21世紀の看護論

口絵7-B ヨガのチャクラと鍼の経路・霊的エネルギーシステム

口絵9 身体は意識に宿るという発想 ビンゲンヒルデガード



参考文献

1. アン・マリナー・トメイ, マーサ・レイラ・アリグッド 監訳 都留伸子 看護理論家とその業績第3版 ジーン・ワトソン ケアリングの哲学と科学 152-165 医学書院
2. 編集 筒井真優美 看護理論 看護理論20の理解と実践への応用 ジーン・ワトソン ヒューマンケアリング 216-229 南江堂
3. 編集 松木光子他 看護理論 理論と実践のリンケージ 68-75,222-229 ヌーベルヒロカワ
4. ジーン ワトソン 訳稲岡文明他 ワトソン看護論 人間科学とヒューマンケア 医学書院
5. ジーン ワトソン 訳 川野雅資他 ワトソン21世紀の看護論ポストモダン看護とポストモダンを超えて 日本看護協会出版会